



Rainbow Net

れいんぼー Topics

障害者週間に「ふれあい列車・はあとふる号」を運行!

～障がいのある人もない人も、三陸鉄道(レトロ列車)の旅を楽しむ～



謹賀新年

会員及び関係機関の皆様、新年あけましておめでとうございます。旧年中はいろいろとお世話になりました。本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

NPO法人レインボーネットでは、昨年(2014)の12月6日(土)、7日(日)の2日間、「ふれあい列車・はあとふる号」(三陸鉄道レトロ列車)を運行しました。この事業は、障害者基本法で定められている障害者週間(12月3日～9日)のイベントとして企画したもので、宮古圏域障がい当事者団体等ネットワークとの共催という形で実施しました。列車内では、じゃんけん大会、景品が当たる抽選会、津軽三味線演奏などを行ない、障がいのある人もない人も、和気あいあいと、約2時間の旅を楽しみました。最後になりましたが、この事業を実施するにあたり、助成していただきました「社会福祉法人・読売光と愛の事業団」様に、心より深く感謝申し上げます。(文責・加藤)

目次 CONTENTS

- | | | | |
|-------------------------------------|-----|------------------------------|-----|
| ●れいんぼーTopics | 1 | ●はあとふるズームイン「地活センター」 | 8～9 |
| ●年頭にあって | 2 | ●Essay・虹の架け橋 | 10 |
| ●ザ・自立支援協議会 | 3～5 | ●はあとふるVoice「当事者の声」 | 11 |
| ●宮古圏域・ふくし現場からのレポート、
新任職員紹介 | 6～7 | ●なんでもKEIJIBAN、
編集後記 | 12 |

年頭にあたって

特定非営利活動法人
宮古圏域障がい者福祉推進ネット

会長 飛澤 和夫



明けましておめでとう
ございます。

本年もよろしく… 年頭にか
わす挨拶は過ぎた年を綺麗にし、
明るい希望をもって新年を迎える
合言葉ですが1年間も天災地変が
続きその被害の傷痕が無残な
軀^{からだ}で残っている惨状を見ると
新年を祝う気持ちもためらいが
ちになります。

しかし、レインボーネットは役職員の
皆様が1年を通して相談支援活動
を続けた実績を検証し、新年度へ

の抱負をもって快く新年を祝って
いただけると思っております。

昨年5月、日本精神神経学会が精神疾患の病名を障害から症へ変更いたしました。
それは障害という用語が病名につくと「治らない病
気」という印象が強くなるので可
能な限り「害」から「症」に置き換
えるとコメントしております。

言語障害は「言語症」、学習障害は「学習症」、不安障害は「不安症」、パニック障害は「パニック症」、



拒食症は「神経性やせ症」、アルコール依存症は「アルコール使用障害」、不安障害は「不安症」のようになっています。

このように用語を変えれば病気が治るかのような推量は抽象的で絵に描いた餅になるだけです。なぜなら、害から症に変えても実践がなければ無味乾燥だからです。

平成15年に障害の害を「障がい」に変えたレインボーネットの発信が全国に広がり、普遍的な用語になっ
て使われておりますが、それはレインボーネットが障がい者との差別感
を無くして、快く相談支援を受け入
れてくれるように、挨拶、礼儀、身
だしなみ、言葉使い、作法などを基
本にした活動を実践してきた

ことで障がい者との距離を縮め信
頼感を増してきたからなのです。

レインボーネットはこのことを社是として、役職員の皆様が
一体となり利用者への相談支援活動を進めて下
さいますよう、お願いを申し上げます。





ザ・自立支援協議会

～これまでの活動を振り返って～

実務担当者会議において、今年度を通して議論してきたことは、平成27年度から始まる『第4期障がい福祉計画の策定』についてです。毎月協議において、宮古保健福祉環境センターを中心に各市町村より進捗状況の報告が行われ、それぞれが持つ課題や問題点について意見交換が行わ

舘崎 伸明氏
（社会福祉法人若竹会・庶務課長）

実務担当者会議

（事務局：宮古圏域障がい者福祉推進ネット／担当：事務局次長・加藤伸二）



れてきました。現在は各市町村とも12月を目途に、計画の素案をまとめる作業に入っており、次年度へ向けた準備が着々と進められている状況です。

その他、『障がい者自立支援協議会の運営』『市町村が持つ障がい者福祉の現状と課題の報告』等については前年度に引き続き議題として取り上げてきた所ですが、今年度は宮古地区チャレンジ就業・生活支援センター・中村所長を委員に

加え、新たに特別支援学校卒業業者等が就労継続支援B型事業所を利用する際に起きている『就労アクセスメントの問題点』について議論を重ねてきました。制度上の問題である為に課題も多く、解決には未だ至っておりませんが、制度を利用する方へより良い支援が実施できるよう、今後も継続して議論して行きたいと思えます。

私は、実務担当者会議の委員となり5年目を迎えますが、会議に参加する中で行政・事業者が顔を合わせ共通の課題について議論することの重要性を改めて感じております。今後も、他の委員の皆様と協力し圏域の障がい者福祉の充実に努めて参りますので、宜しく願います。

権利擁護部会

（事務局：宮古圏域障がい者福祉推進ネット／担当：相談支援専門員・平野千代野）



より、後見制度の利用につながった事例または解決に向けて一定の方向性が見いだせた事例も多くありましたので、それにより一人でも多くの権利擁護を図ることができたという意味において、今年度、事例検討会を活動の中心に置いたことは非常に大きな意味があったと考えております。

また、当部会は権利擁護支援として後見制度の利用及び普及を推進しておりますので、後見制度の普及活動についても研修会、権利擁護セミナーの開催等を通じて力を注いで参りました。権利擁護の一手法として、後見制度があり、同制度により権利侵害に直面している方を救済することができると

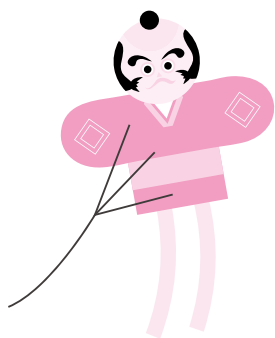
いうことを参加者の多くの方に知って頂ければと思います。

今後、後見制度のニーズは増加すると言われております。当部会は、福祉職並びに法律職が連携し後見制度及び社会保険制度を活用することにより宮古圏域で生活する方々の権利擁護の一助となるよう活動して参りたいと思えます。

貫洞 厚氏
（實洞征功司法書士行政書士事務所・司法書士）

今年度の当部会は、昨年までの法人後見による権利擁護支援を目的とする「成年後見センター」設置に向けての取り組みを一時休止し、部会員各自が権利侵害の早急な解決が必要であると思われる事例を持ち寄り、解決に向けて部会員がそれぞれの立場から意見を述べ、解決に向けて検討するという「事例検討会」を中心とする活動を行いました。

事例は各回、福祉職並びに法律職それぞれから報告され、解決が困難と思われる事例も部会員皆で検討することに



生活支援部会

(事務局：宮古圏域障がい者福祉推進ネット／
担 当：相談支援専門員・山本美恵子)

相談支援グループ

佐々木伸一郎氏
(相談支援事業所「まつやま」・
相談支援専門員)

今年度の相談支援グループは、例年通りに前年度の活動を踏襲しています。

昨年度の取り組みの継続として、「計画相談支援」に関する共通理解と情報共有です。地域懇談会のなかで、レインボーネットの澤田相談員から概要説明を行う他、昨年度の11月から1月にかけて、サービス等利用



計画に意識調査をアンケート形式で実施しました。当事者、保護者、サービス事業所、相談支援専門員それぞれからサービス等利用計画に対する実態把握を行うことができました。今年度は冊子としてまとめることができ、アンケート結果から出された課題などは、その後のサービス等利用計画の作成に生かされているものと思われまます。

地域懇談会は7月～11月にかけて、圏域4市町村で実施することができました。今年度のテーマは「地域生活を考える～誰もが安心して暮らせる地域づくり～」です。障がい者を含め、誰もが安心して暮らせる地域を目指すために、何が必要なのか、何ができるのか、普通に暮らすとはどういうことなのかを、当事者・家族・関係者等の立場から、必要な社会資源等を含めながら意見交換をすることができました。

スキルアップセミナーは、「相談援助場面における傾聴について」と題して、講師に未来の風せいわ病院の安保寛明氏を招いて、平成27年1月23日に実施されます。対人援助に関する基本的かつ専門的な知識・技術の習得をめざし、講義及び演習形式で実施することとしていますので、多くの方に参加いただいて自身のスキルアップを図っていただきたいと思います。

考えています。

各事業所で抱える処遇困難事例については、今まではそれぞれの様式を活用していましたが、GSV手法を活用することで、一定の時間内である程度の結果をだすことができ、報告者が自分の施設に持ち帰ることができるようになっていきます。

生活支援部会として、就労支援グループを連携しながら福祉サービスを利用する方の地域生活を今後も応援していきたいと考えています。

就労支援グループ

小林和信氏

(宮古地区チャレンジ就業・生活支援センター・就業支援ワーカー)

今年度は、昨年度の相談支援部会と就労支援部会を統合し、生活支援部会を設置、相談と就労の幅広い専門機関との連携を深め、障がい者等の支援体制に係る課題を整理し、必要な社会資源の開発や改善に向け、取り組んでまいります。

新たな生活支援部会発足にあたり、就労に関するグループでの活動内容を紹介いたします。

具体的取り組みといたしまして、○就労系障がい福祉サービス利用にかかる就労アセスメントシステムの見直しを行う。については、昨年度から宮古圏域で実施しました特別支援学校卒業予定者の就労アセスメントについて、関係機関の

皆様よりご意見を頂戴し、18歳前の就労アセスメントに係る暫定支給決定、アセスメントの開始・終了時期、実施期間、アセスメントシートについて、検討して参りました。○チャレンジフォーラムを開催する。については、講師に厚生労働省・就労支援専門官をお招きいたしまして、「障害者就労支援施策の動向について」の講演と第2部といたしまして、「宮古圏域における実践から就労アセスメントの現状と課題について考える」をテーマに就労支援専門官にも参加していただき、関係機関の方々とディスカッションし、それぞれの立場から意見交換が出来ました。○事例検討会を行う。については、グループスーパービジョンの手法を活用し、支援の振り返りと意見交換をしながら専門性の向上を図り、研鑽しております。今後も宮古圏域における障がい者等の支援体制の充実を目指し、取り組んで参りますので、よろしくお願いたします。



中島一博氏

(宮古山口病院・医療相談室長)

今年度の精神保健部会の取り組みとして、ホーム入居者等の情報集約するシステムの整備における検討を行い、一定の道筋をつけることができた。その一つが、グループホームの空き情報を定期的に情報収集し、レインボーのホームページにアップし、圏域に公開していくというものである。情報を一元化しスピーディーに地域移行につなげていきたいと思っています。

11月29日には、地域生活支援セミナーとして、宮古山口病院長の及川曉氏とフリーアナウンサーの上野泰夫氏をお招き

精神保健部会

(事務局：宮古圏域障がい者福祉推進ネット／担当：相談支援専門員・澤田 勝)

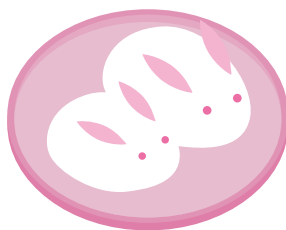


して講演をいただいた。及川先生には、「心の病の方の薬物治療」という演題で、障害や薬にまつわる副作用について再発防止につながるお話をしていただき、知識を吸収しスキルアップにつながった。上野先生においては、「笑いが健康の特効薬」と題し、笑いがもたらす健康についてユーモアたっぷりにお話しいただき、心身ともリフレッシュすることができ、元気をもらい充実したセミナーだった。

地域課題として、住宅サポート事業における、市内不動産との連携について、宮古市における現状の話を聞く中で、今後どういう形で連携し、支援体制を構築していくか検討していくことになっている。

最後に、昨年、地域移行している当事者から寄せられた、グループホームから単身生活を希望している方を対象とした、地域生活を送る上でのヒントをもらえる会を開催し、当事者同士が話をする中で希望を持てる生活実現に向けて取り組んでいきたい。

地域移行における多職種連携から地域課題の解決を目指していきたいと考えています。



発達支援部会

(事務局：宮古圏域障がい者福祉推進ネット／担当：相談支援専門員・高屋敷大助)



[発達支援セミナー後の写真です]

菅原 寿氏

(宮古恵風支援学校・教諭)

発達支援部会では、2ヶ月毎の定期的な会議を持ちながら各関係諸機関との連携を深め、福祉、教育、就労等の情報共有を図っています。併せて、主に支援者に向けた勉強会(発達障がい学習会)、広く一般に向けた講演会(発達支援セミナー)、保護者と関係者の懇談会(なないろ茶話会、子どもの育ちへの相談会(ペアレントトレーニング&そだちの相談)などを企画・運営しています。

震災後に始まった発達障がい学習会も4年目を向かえました。第1回は、いわてこどものケアセンター主任臨床心理士の三浦光子先生から「こどもの愛着と発達について」講義をいただきました。三浦先生には、いわてこどものケアセンター宮古フランチでも子どもたちへのフォローをいただいております。

第2回は、花巻市で地域の発達障がい児・者と保護者支援に取り組んできた花巻市教育委員会教育相談室の三田敏明先生から「花巻・風童(はつば・かつば)10年の歩み」を情熱ある語りで伝えていただきました。地域の理解・支援・繋ぐのキーワードから宮古圏域では、どんなことができるのか考えさせられるものでもありました。第3回は、「当事者から学ぶ」と題し当事者の方3名に登壇いただき学校生活、仕事や生活のことなど、これまでの経験を話していただきました。参加者からは「障害者であるか否かではなく、人として生きるための大切な部分を改めて気づかされました。」との感想があり共感性ある学習会となりました。

今年度4回のシリーズ化に発展したペアレントトレーニングでは、前段にみちのく療育園小児科医川村みや子先生から発達障がいについてわかりやすく解説いただき、後段では三枚堂静子先生から実際の例を保護者、支援者側からあげてもらいペアレントトレーニングを展開していただきました。毎回参加者の定員を超える好評な学習会となりました。川村みや子先生のそだちの相談では個々の相談に丁寧に対応していただき保護者、支援者が支えられる場となりました。

発達支援セミナーでは、こころそだちのクリニック「むすびめ」院長田中康雄先生から「生きづらさを抱えたこども・おとな」日々丁寧に生きることを応援する」と題して、発達障がいとは生活障がいの視点から臨床事例を交えて話していただきました。宮古圏域内外から200名以上の方々にご参加いただき大盛況の講演会となりました。

これからも、常に社会的支援のアンテナを高くし、支援者と保護者・当事者のエンパワメントを高めていける事業を行っていきたいと思っています。今後とも、皆様のご協力をお願いいたします。

現場からのレポート

Report 1

ユニバーサルデザイン 推進に向けた取り組み

相談支援専門員 坂下 晃

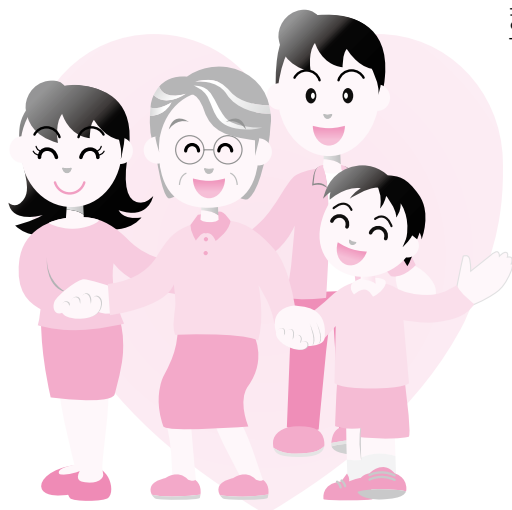


ユニバーサルデザインとは年齢、障がいの有無にかかわらず、すべての人が自分の意志で自由に行動するために、はじめからバリアを作らず、できる限りすべての人が利用できるよう、製品や環境をデザインしているという考え方であり、「みんなのデザイン」と呼ばれています。

宮古地域では平成24年4月に、宮古保健福祉環境センターを事務局に障がい当事者等、関係団体、行政の19名で宮古地域ユニバーサルデザイン推進連絡会議を立ち上げました。これまでの活動として、平成24年度は障がい当事者の被災体験の伝承・共有化を目指し、避難所や仮設住宅で感じている不自由や不具合をユニバーサルデザインの視点から把握してフォローアップを行い、災害公営住宅建設等にフィードバックし、提言を行っています。平成25年度からは震災から復興を目指す街づくりにユニバーサルデザインの視点を取り入れるための活動をしており、公共施設を中心に新規に建設する施設は可能な限り専門家を交え図

面を見ながら提言を行っています。再建計画のある施設については計画の確認を行っています。現在、特に力を入れているのは公共施設、宿泊施設、商業施設等の宮古地域ユニバーサルデザインマップの作成です。平成25年度は旧宮古市域の20か所で自動ドア、入口スロープ、障害者用トイレ等の12項目を調査しました。今年度は旧田老、新里、川井、宮古の12か所の調査を終了しております。このマップは完成次第、市内の各所に配布予定となっており、平成28年に岩手で開催される国体と障害者スポーツ大会で宮古市にいらっしゃるお客様や市民に役立てて頂くことになっていきます。

「すべての人」の限りなく多様なニーズを完ぺきに満たすことを実現することは困難ですが、「よりよいもの」への改善を繰り返しながら最終的な目標に近づいための活動を今後も続けていきたいと思っています。



新任職員紹介

よろしくお願いします！



瀬浪 仁志（支援員）

昨年9月からレインボーネットで勤務をしています。高齢者の福祉に関する仕事の経験はありますが、障がいの分野に就くのは初めてになります。幅広い制度のことなど分からないことも多いのですが、関わる方の笑顔や周囲の職員に支えられながらの毎日です。プライベートでは「みやこ三絃会」に所属しており、お祭りやイベント等で演奏をする機会もあります。公私ともに頑張っていきたいと思いますので、宜しくお願いします。



宮古圏域・ぶくし

Report2

発達障がい者支援の 現状と課題

相談支援専門員 高屋敷 大助



「私は発達障がいでしょうか?」「うちの子ども発達障がいだと思ふのです」「診断は受けてきまし

た、あとはレインボーネットに相談しなさいと言われて...」「仕事が続かなくて...」「経済的に厳しくて...」「家族と軋轢が...」これは相談場面の一部分を切り取ったものです。それぞれの抱えた問題は個別的ですが、あえて共通性を見出すとしたら「生るのがつらい!」という強い思いでしょう。相談件数も増加傾向にある今、宮古圏域における発達障がい児・者の相談支援の現状と課題について、私の狭い知見で恐縮ですが触れさせていただきます。発達障がいのある方は、周囲からの理解や応援がないと日々の生活に支障が出やすく、孤立や居場所を失いやすい傾向にあるように思います。初回の相談では「意を決して相談にきました...」「ここに来るまで数年かかりました...」という思いを少なからず受け取ります。この言葉の奥には動揺、葛藤、不安、不安全感、挫折感と、わずかに残る期待感が見え隠れしています。これまでの経過に労いと賞賛を交え

ながら、少しでも光が差し込むよう相談に応じます。言葉の具体性を持たせることや可視化は言うまでもなく必要な配慮事項となります。

ご本人、ご家族の様子を見ながら、福祉的な支援の情報提供と利用に向けた調整を行います。福祉的な支援が入り負担を軽減された環境で、いきいきと仕事や生活を送っている方がいらつしやいます。一方で、負のレッテルを感じ福祉的な支援に抵抗を感じる方もいます。当然の思いでしょう。また、本人に内緒で家族が相談に見えるというケース、行きつ戻りつを繰り返し長期戦の様相を見せるケースなど様々です。その時は、来るべきタイミングで支援できるよう見守ります。移ろう生活の中で新たな展開が生まれることを願ひながら...

では、課題は何か。理解啓蒙・社会資源・家族支援など山積です。何をすべきなのか途方に暮れそうですが、背伸びせず、今できることを積み重ねていくしかありません。この課題は発達障がいに限らないことも付言いたします。

最後に、自戒を込めて「つながり無くして支援は展開されない」とは自明な事実でしょう。一人では何もできないという無力感に立ち往生します。ですから、私達は人とのつながりに縋り頼るのでしよう。決してスマートではない泥臭い実践の日々ですが、つながり続けるという関係性をいかに大切にするか。問われているような気がします。

新任職員紹介

よろしくお願いします!



大内 カンナ (支援員)

はじめまして、10月からレインボーネットに働いています。福祉関係に携わるのは初めてで分からないコトだらけですが、有意義な毎日を送っています。

趣味は読書です。色々なジャンル、色々な作家の本を読みますが一番大事にしている本は「深夜特急/沢木耕太郎・著」です。大好きで何度も読み返しています。自分がもっと若かったらこんな旅をしたいなあと思います。インドのデリーからイギリスのロンドンまで乗合バスのみで旅をする。なんて無謀で世間知らず... (笑)。でも、ちょっぴり懂れます。いい大人なので無謀なことはやりませんが、少しだけ冒険心を持って日々楽しめたらと思います。よろしくお願いします。

ち かつ 「地活センター」



に、自立の促進、生活の改善、身体機能の維持向上、社会との交流の促進を目的に、創作的な活動、SST(社会生活技能訓練)・との連携強化のための調整、ボランティアの育成、障がいに対する理解促進を図るための普及啓発事業を実施しています。

はあとふるフェスタ2014



慎重に〜! かたぬぎ



大盛況だった金魚すくい



地域活動支援センターの
活動で取り組んだ作品



街中でスカットボールを
楽しみました



昨

年も10月12日・13日と2日間に行われました。はあとふるフェスタを開催しました。末広町花の木通りのメイン会場では、地域活動支援センターの活動で取り組んだ作品展示や、癒しの空間を設け、お祭り広場では金魚すくいや駄菓子コーナー、かえっこバザール等、たくさんの方々に楽しんでいただきました。ボランティアで参加した当事者の方々も、積極的に販売や接客を行い、よい刺激・経験となりました。障がいのある方ない方も、一緒に同じ時間を共有し、笑顔あふれる交流となりました。

はあとふるフェスタにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

はあとふるフェスタ2014

アンケート結果(一部)

- ◆子ども達が楽しめて良かった。
- ◆元気、勇気づけられるイベントです。色々な企画ありがとうございました。
- ◆人が多く天気にも恵まれ、活気があって楽しかったです。
- ◆障がいのある方たちのために、今後も頑張ってください。
- ◆とても面白かったです。いろんなライブとかをやって欲しいです。



はあとふるズームイン!!

「地域活動支援センターみやこ」では、障がい者等（身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、障がい児及び難病等）を対象
ピアカウンセリング等の活動、各種サークル活動を行っています。また、専門の職員を配置し、医療・福祉および地域の社会基盤



購入した本



購入した本棚! スッキリしました。



フラ・ヴェリナの皆さん

※フラを通してボランティア活動をしている、秋田県大仙市のフラ団体「フラ・ヴェリナ」様の代表小山フク会長と、宮古のフラ教室でフラの指導を行っている室谷浩子先生が9月1日来所されました。

東日本大震災後復興のお手伝いとして、宮古にてフラをご指導いただいております。フラ活動で集まった資金を、被災地の障がい者の方々に役立てて欲しいという思いを受け、今回寄付金を頂戴することになりました。

当事者の方々に喜んで頂けるものとして、本や本棚・ゲームを購入。はあとふるセンター一階の貸出本も増え、新しい本棚を設置し本も見やすくなりました。ゲームは当事者の活動時に使用し、参加者皆で楽しんでおります。

「フラ・ヴェリナ」様、ご支援ありがとうございました。大切に利用させていただきます。

※フラとはハワイ語で、ハワイの伝統的な歌舞音楽です。フラにはダンス・演奏・詠唱・歌唱の全てが含まれます。

日本の能楽と同様にハワイの文化や歴史と深く関わりがあります。

**秋田県「フラ・ヴェリナ」様より
寄付金を頂戴しました!**



「地域活動支援センターみやこ」

活動紹介

趣味サークル・お菓子作り

毎月一回参加者同士でメニューを決め、お菓子作りを楽しんでいます。お菓子の作り方はもちろん、参加者同士の交流にも花が咲き、笑い声がたくさん聞こえるサークル活動です。



完成したお菓子の一部

★参加者からの声★

◆いつも楽しく参加しています。新しいレシピを覚え、皆さんと交流できてうれしいです。

◆毎回楽しみにしており、次回のメニューを考える事も楽しいです。参加者皆で笑い、たまにはいい食べられる事もあり、そんな時はラッキーです。

エッセイ
Essay

虹の架け橋

「当事者と共に、地域で活動していきたい」

レインボーネット事務局長 加藤 伸二



◇語りかけてくる言葉

昨年、社会福祉法人若竹会の総合機関紙に「自覚者が責任者という思いを胸に」と題し、寄稿させていただきました。

「自覚者が責任者」とは、気づいた人が実践していかなければならないという意味で、障がい者福祉の父・糸賀一雄先生が、著書「福祉の思想」の中で用いている言葉です。

この先人の言葉は、障がい者福祉に携わる私たちに、ある時は厳しく、またある時は優しく、語りかけてきます。

◇まずは気づくことから

いまから二十八年前、私は、大学を卒業してすぐ、障がい者の入所施設で働くことになりました。

いま振り返れば、そのころの私は、利用者一人の生活者として捉えることができていなかったように思います。

「〇〇さんは、川のきれいな町で生まれ、家族からの愛情をたくさん受けて育った。中学卒業後に上京し、町工場で働き、つき十万円以上の給料をもらって

いた。週末は同僚と遊びに行くなど、自由な生活をしていた人」として、自分の目の前にいる利用者を、個別的かつ具体的な存在として捉えることができていなかったように思います。

入所施設で、利用者を一人の生活者として捉え、個別的に支援していこうとすればするほど、現実の壁に直面します。そして、入所施設における実践の限界に気づきます。

気づいた人がみな、行動に移せるとは限りませんが、すべての実践は、まず、気づくことから始まっていくのです。

◇地域で活動するということ

私は、平成十年十月、宮古圏域のコーディネーターに就任し、入所施設を離れ、地域の中で活動することになりました。

最初は、右も左もわからず、大変苦労しました。関係機関を訪問しても、なかなか、相手にしてもらえず、途方に暮れた時期もありました。

また、すべての地域住民が、「障がい」を正しく理解しているわけではありません。なかには、露骨に差別的な発言をする方もいました。

そんなとき、相手に対してだけでなく、何もできない自分の無力さにも憤りを覚えたものです。

しかし、いまは、そういうことも含め、すべてが地域で活動していくのだと思えるようになりました。日々の実践が、障がい者の応援団を地域に増やしていくことだと確信しています。

◇当事者の声が大きな力

新たな社会資源を創っていくとき、当事者の声が、もっとも大きな力を発揮します。私たちは、これまでの実践を通して、そのことを実感してきました。

レインボーネットは、当事者の声を集約し、その思いを代弁しながら、権利擁護の実践を積み重ねていくだけです。私たちが架け橋となり、地域に障がい者を応援してくれる人が、一人でも多く、うまれていくことを願いながら……



はあとふる Voice

(当事者の声)

私は5年ほど前にうつ病を発症し仕事を辞めました。退職した当初は過呼吸、めまい、どうき、息切れ、難聴、不眠に苦しめられ、つらい毎日だった事を覚えています。体力が極端に落ち、1日働いたら2日は動けないような状態でした。それに、「俺は負けたんだ」という意識に取りつかれながら休養生活を送っていました。



転機となったのは東日本大震災

中澤孝幸さん

ました。

はあとふるセンターでは主にSST、ピアカウンセリング、WRAP、だるまサークルに参加しました。活動を通して気づいたものは、①「決められた時間で自分をどう表現するか」の重要性、②「障がいを持っていても同じ「人間」であることには違いない、という事でした。それから徐々に職場での実習も行い、念願の再就職となりました。

障がい者枠での就職となり、SSTやピアカウンセリングの技法が「報(報告)連(連絡)相(相談)」の形で役に立っています。また、前職での経験が意外な形で役に立っている事にも気づき、少しずつ過去と向き合えるようになってきました。

しかし「障がい者」という事で、無意識の偏見を少なからず感じます。表現の仕方が普通の人より少し不得手なだけに…。自分と同じような境遇の方に対して、大事にできる職場にしていきたいと思っています。

インタビューコーナー

佐々木 智栄子さん

○どんなお仕事をしていますか？

・アトリエSunで缶洗いや手芸、お菓子作りなどをしています。職員さんや一緒に通っている人たちとおしゃべりしながら、手芸をやっている時間が一番楽しいです。

○仕事をする上で大変なことはありますか？

・体調が悪くて作業がつらいときは、職員さんに調整してもらっています。調子を崩して休む時は、周りに心配をかけたり気を遣わせたりするのが申し訳ないです。体調管理をしっかりしたいと思います。

○お休みの時は何をしていますか？

・休みの日はアトリエSunに通っている人と一緒にカラオケをするのが楽しみです。時々、一人で行ったりもします。金澤未咲、みやさと奏など演歌が好きです。育成会の話し合いに



呼ばれ、盛岡へ行く事もあります。

○普段の生活で印象的な出来事はなんですか？

・一緒に住んでいる弟の子供と遊ぶことです。やんちゃでたくさんになりますが、抱っこしてと甘えてくるのが可愛くて、そんな時は癒されています。

○地域での活動に参加された感想を教えてください。

・はあとふるフェスタや地域懇談会に誘ってもらったことはありがたいです。イベントや活動があれば、これからも参加したいと思います。

○これからの目標や希望を教えてください。

・今一番の楽しみは、来年の10月にお父さんが東京で民謡の大会に出るので、一緒についていく事です。行ったときは、出来れば東京ディズニーシーにも行きたいです。将来的には車の免許を取って運転してみたいと思っています。

※インタビューにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
智栄子さんの願いが叶うといいですね! (インタビュアー：阿部)

なんでも KEIJIBAN

宮古圏域障がい者相談支援 スキルアップセミナー

●主催

宮古圏域障がい者自立支援協議会
(生活支援部会・相談支援グループ)

●日時

1月23日(金)
午後1時30分～4時30分

●会場

宮古地区合同庁舎 3階大会議室
50名(参加費無料)

●定員

●対象者

保健・医療・障がい福祉関係者・関連する団体等

●テーマ

「相談援助場面における傾聴について」

●講師

未来の風せいわ病院 からの暮らし支援部 副部長 安部寛明氏

●演習

「相談援助場面における受容と傾聴について」(ロールプレイ)

リカバリーDE仮面座談会 ～恋愛編～

今年も「リカバリーDE仮面座談会」を開催します！
今回のテーマはズバリ「恋愛」♡

●対象者

「恋愛したいけど、病気や障がいがあるとなかなか一歩が踏み出せない」「恋の話をとくさんしたい」「聞きた～い」そんな方集まれ！



この座談会ではゲストからお話を聞いたり、みんなでおしゃべりしたり、楽しみながら考えます。もちろん全員仮面着用！(ご用意します)

●主催

NPO法人レインボーネット
(地域活動支援センターみやこ)

●日時

1月24日(土) 午後1時～3時
受付 午後12時40分～

●場所

カントリースカフェ 3階
(宮古市保久田2-22)

●定員

20名程度

●会費

300円(飲み物代含む)

●対象者

興味のある方やその家族など

●内容

恋愛経験者からお話を聞くことができます！(例えば、付き合っていた彼女or彼氏と結婚しました。只今、恋愛中！などなど)
恋愛について、普段思っていること、悩んでいること、フリートークで！(もちろん、聞いているだけでもOK！)

権利擁護セミナー

私たちの身近にある具体的な事例を通して、権利擁護支援の実践を学びます。

●主催

宮古圏域障がい者自立支援協議会
(権利擁護部会)

●日時

2月17日(火)
午後4時～6時30分

●場所

宮古山口公民館
(宮古市山口1-3-14)

●定員

50名(参加費無料)

●対象者

障がい福祉・介護保険関係事業所の職員、行政機関・医療機関の職員、障がい者・高齢者支援団体の会員、民生委員児童委員、地域相談員など
●内容 事例に基づくグループワークと弁護士等の解説

宮古圏域精神障がい者地域生活支援 広域調整会議等事業勉強会

●主催

NPO法人レインボーネット
3月14日(土)
午後1時～3時10分

●場所

宮古地区合同庁舎 3階大会議室

●定員

30名程度(参加費無料)
●対象者 市町村担当者、病院スタッフ

●テーマ 地域移行と多職種連携を通して地域生活を支える

●講師

相談支援事業所ふあっと(島根県) 認定看護師 東美奈子先生

クリスマスプレゼントが届きました♪

埼玉県の石澤牧子様より、クリスマスプレゼントが届きました。震災以降、毎年贈ってくださいます。いただいたプレゼントは各サークルのクリスマス会で利用させていただきますました。

いつもでも被災地に寄り添い、お心遣いいただき本当に感謝いたします。

ありがとうございました。



●問い合わせ先 レインボーネット事務局

TEL 0193-64-7878
FAX 0193-77-3921

会員募集

かいいん ぼ しゅう
会員の種類と年会費について

個人	正会員	1,000円
	賛助会員	500円
団体	正会員	5,000円
	賛助会員	1,000円

NPO法人
レインボーネットの活動を
応援してくださる方を
募集しています。



編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年は皆さんにとってどんな一年でしたか？レインボーネットでは昨年色々なイベント等を企画し、実施しました。『自立支援協議会研修会でのピュアハートコンサート』『はあたるフェスタ』『ふれあい列車はあたる号』等々、皆さんのたくさんの笑顔に出会えたことができました。

今年は未(ひつじ)年、未年生まれの方の特徴は穏やかで温かく優しい。正義感が強く、真面目だと言われているそうです。私にはないものばかりですが…

一人では難しいと思うことでも、群れで行動する半の様に皆が集まり協力すれば、何かできることがあるかもしれません。

今年はどうな出会いが待っているのでしょうか。皆さんが笑顔になり、そして、皆さんの笑顔に出会える年になったら良いなと思っています。今年もよろしく願います。(緑川)

◆発行

NPO法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット(レインボーネット)
岩手県宮古市緑ヶ丘2番3号
はあたるセンターみやこ1F
TEL 0193-64-7878
FAX 0193-77-3921
E-mail info@myako-rainbow.com
URL http://www.myako-rainbow.com/

◆発行責任者

会長 飛澤和夫

◆企画・編集

レインボーネット事務局